

通級だより

静岡聴覚特別支援学校

通級指導教室

2025年2月 No.9 文責 芦澤

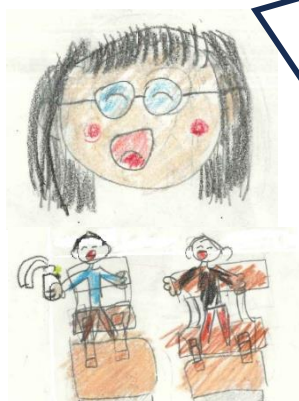


難聴児在籍校の取り組み

難聴児が在籍する各学校で、教職員・保護者・関係機関が連携し、子どもや集団の実態に合わせて工夫しながら、支援・指導に取り組まれています。今回は、その一部を紹介させていただきます。

【静岡市立賤機南小学校】

杉山先生



【ロジャーの活用方法】

子どもの声は教師でも聞き取りにくいことがあり、難聴児はもっと聞こえにくいだろうと思いました。本人から「ロジャーを教室の真ん中に置いてほしい。」という話がありましたが、学校訪問での情報交換や難聴理解授業の内容から、ロジャーを首に掛けたり手で持ったりして話した方がよく聞こえるのではないかと思います。発表者がロジャーを持って発言することにしました。「ロジャーを受け取った人が発表する」という、みんなが見て分かる合図にもなり、学級全体として、発表者に意識を向けて話を聞いたり、次は誰に発言してもらおうかと考えたりする子どもの姿が増えました。

【静岡市立千代田小学校】

【必要な配慮について自分で伝える力】

年度初めに、本人と一緒に、関係する先生方へロジャーの説明をしに行きました。高学年になり、「一人でできることを増やしたい」という保護者の思いがあったことと、子どもの実態を見て「伝える力を育てたい」と感じたことから、基本的な操作方法については自分で説明するように指導しました。必要に応じて補足はしましたが、本人が一人一人に説明したことで、今も毎時間本人がロジャーの使用を依頼し、使用後も自分で回収することができています。授業に携わる先生方もロジャーの使用方を理解してくれて、教員・本人ともに抵抗感なく、ロジャーを使用できていると感じています。

朝比奈先生



【静岡市立大谷小学校】

齊藤先生、Co. 吉田先生



【関係者の連携を深め、みんなで育てる】

「学校のみんなで育てよう！」という思いで、教育支援計画を作成し、保護者との面談を年に3回実施しました。また、学校全体の取り組みとして、「こどもを語る会」という特別支援・生徒指導を必要とする子どもについて教員間で情報共有する場で、支援方法を発信しました。他学年の子どもが補聴機器を見て不思議そうにしていたり、大きな声で叫んだりしたことがあったので、他の学年の先生方に知ってもらうことで、子どもたちに正しい情報を伝えたり、言動の指導につなげたりすることができたと思います。

【焼津市立大井川中学校】

塩原先生



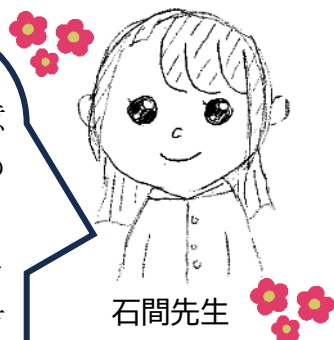
【「難聴児も健聴児も、みんな同じ！」と学ぶ活動】

難聴児は聞こえにくさを抱えていますが、人それぞれ「運動が苦手」「コミュニケーションが苦手」等、さまざまな苦手を抱えています。難聴児にも他の子どもたちにも、「みんなそれぞれ苦手がある」、「みんな同じ」と捉えてほしいと思い、4月の学級活動で、自分のトリセツを作成して1対1で開示する活動を行いました。自分のことを全体へ発信することに抵抗感を感じている生徒でも、知ってもらいたい相手・知ってもらふ必要がある相手には自分で伝える力がつくとよいと考え、伝え合う場を設けました。活動の中で、友達に自分の聞こえの特徴や補聴機器について説明する姿が見られました。

【島田市立第二中学校】

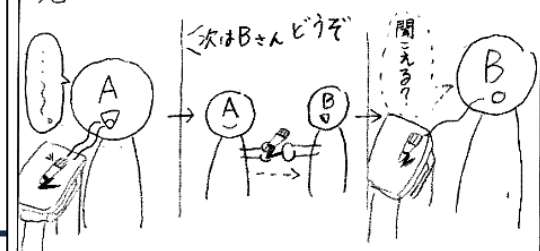
【安全安心な学習環境づくり】

年度当初、「少しゆっくり話す」「大きめの声で話す」等、子ども達にも意識してもらいたいことを手本として見せるようにしました。また、学年部の先生方に、難聴児の支援について気になることや不安なことはないかを聞き取り、通級担当者と連絡を取りながら支援方法を考え、働き掛けました。その結果、先生方が積極的に支援や環境設定を行ってくれたり、声の伝わり方を考えて補聴機器を使用してくれたりしました。水泳の授業では、安全面を考慮して、支援のための教員を付けて対応したり、バディーの生徒に伝え方を工夫するように促したりしたことで、学習内容を理解し、安全安心に活動することができたと思います。



石間先生

発表のとき...



【牧之原市立相良小学校】

澤戸先生



【卒業式に向けて】

卒業式は、卒業生の言葉や歌唱もあるため、本人が困ることがないようにしたいと考えています。マイクを通した音は聞こえているか、ロジャリーが必要な場面はあるか等、教員の動き方も含めて検討中です。本人が言葉を使う場面では、自分でタイミングが分かる必要があります。そのため、友達の言葉をしっかり聞き取ることができるように並び順を工夫する予定です。本人や通級担当者と相談しながら、よい方法を模索していきたいと思っています。

《地域支援部 通級指導担当より》

先生方が、生活の様子や本人とのやり取りの中で一人一人の困難さを見取ったり、関係者との連携を深めて、必要な支援及び指導を検討したりしてくださっていることが、子どもたちの安全・安心な学習につながっているのだと改めて感じました。子どもたちが、通級指導で得た学びを活かして、在籍校で力を発揮したり、充実した生活を送ったりすることができるように、みなさんのチームの一員として引き続き子どもたちの力を育んでいきたいと思っています。

年度末のまとめや次年度に向けてなど、いつでもご相談ください。